



やまがたれいわスタートダッシュ通信 No.1

ファシリテーター研修会 を開催しました！

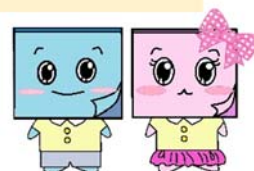
発行：(一社)山形県農業会議
やまがたファシリテーター研究会(仮)
令和2年2月21日発行

☆れいわスタートダッシュとは



山形県農業会議では、各市町村の担当部局が中心となって進める「人・農地プランの実質化」に農業委員会が一体となって取り組むため、全国農業会議所が展開する「地域の農地を活かし、担い手を応援する全国運動」と連動して「やまがた“地域の農地を活かし、担い手を応援する”活動」～れいわスタートダッシュ～を実施しています。

ファシリテーター研究会(仮)→
キャラクター：フセンくんとフセンちゃん



☆「ファシリテーター研修会」基礎編・応用編はこんな感じ！

山形県農業会議では、れいわスタートダッシュの取り組みの一環として、人・農地プランなどの地域の話し合いが円滑に進むよう、合意形成型会議の研修会を実施しました。(11月に基礎編、12月に応用編を開催)(一社)会議ファシリテーター普及協会より講師を迎え、申込のあった、農業委員や推進委員、農業委員会事務局職員の総勢 121 名が参加。参加者が、実際に現場でファシリテーター(進行役)となれるよう、「技術の習得」を目指し、ワークショップ方式による「合意形成型会議」を体験しました。



↑雰囲気づくりが大切なんです！！
先生がたのショートコント

↑クイズに答えて「景品」をゲット！

みんないい
笑顔だね！



グッシュョフ！ 付箋を使って全員参加！
身を乗り出して話し合います→

←フセンくん



ファシリテーター研修会に**最多参加!** 寒河江市農業委員会の取り組みをご紹介します!

☆全国農業新聞 2月7日号 東北版に掲載された記事



↑最後にじゃんけん大会!
おおいに盛り上がりました。

【山形】寒河江市農業委員会(木村三紀会長)は、昨年12月16日から26日にかけて市内9地域で、人・農地プランの実質化に向けた話し合い活動をした。

この活動は、昨年8月に市内の農家を対象に実施した農地利用意向調査の結果を活用し、ワークショップ方式による合意形成型会議で開かれた。農業委員・農地利用最適化推進委員がそれぞれ各地域を担当し、話し合いの進行役を務めた。話し合いの開催に先立ち同委員会では、その進行役の技術を学ぶために山形県

菊地亮通信員) 農業会議の協力のもと(一社)会議ファシリテーター普及協会の講師を迎え、基礎編・応用編の2回にわたる研修会を実施している。ワークショップ方式の話し合いは、参加した農業者のほとんどが未経験で最初は戸惑っていたが、話し合いが進むにつれて全員が活発に発言するようになり、各地域の問題解決のための意見が多く出された。参加者からは「初めての経験だったが、なかなか良い話し合いだった」との感想が聞かれた。

人・農地プラン実質化へ 寒河江市農委会、ワークショップ方式で 9地域で話し合い活動



県農業会議で研修した内容を現場で活かすため農業委員会で実践している様子

この話し合いをもとに、同市では市内9地域すべてで今年3月中旬に実質化された人・農地プランが作成される予定だ。(寒河江市農業委員会・

その他、「鮭川村」・「鶴岡市」・「農業委員会女性の会」でも合意形成型の会議を実施しています!

☆ファシリテーター研修会講師(一社)会議ファシリテーター普及協会 代表理事 釘山健一先生より山形県内の農業委員会の皆様へメッセージをいただきました!



右:釘山健一先生 ↑
↑左:小野寺郷子先生



いま、山形県の農業委員会の話し合いが変わろうとしている。これは全国的にみても間違いなく言えることだ。ワークショップ型の話し合い(参加者が全員発言できる話し合い)にもいろいろあるが、その中でも農家の座談会に最も合ったやり方が「MFAメソッド」だ。それは全員が発言できるため大切にしていることが「明るく前向きな雰囲気」。この部分を徹底しているのがMFAメソッドの特徴といえる。このMFAメソッドは現在、全国農業会議所が全国で普及するように取り組んでいるものであり、山形県はその研修と実践において、**最先端である**。山形の農業委員会は、山形県農業会議と一緒に、ぜひ、この活動をどんどん広めていってもらえればと思う。

山形県農業会議では、今後も人・農地プラン実質化に向けた「話し合い活動」を支援していきます。

やまがたれいわスタートダッシュの活動については、今後 HP に掲載していく予定です!

<http://www.yca.or.jp/>

